



経営の中心であるこねぎハウスの全景

## 経営概要

- ◆代表者、所在地  
森林太郎、大分県国東市
- ◆設立年  
令和4年6月
- ◆経営規模  
こねぎ 1.0ha、かんしょ 50a、朝顔（種子）3a、  
水稲 17a
- ◆従業員数  
パート・アルバイト5名
- ◆事業内容  
農産物（こねぎ、かんしょ、朝顔（種子））の生産に  
取り組む。

## 1 現状及び相談内容

森氏は国東こねぎトレーニングファームで1年間の就農研修後、平成30年に就農した。就農後、経営を開始したが、令和2年に「売上や経費の配賦など、経理が煩雑であること」、「年商3千万円を超えてきたこと」等を理由に法人化をしたいと令和4年3月に相談があった。

## 2 支援内容

司法書士が法人化に向けた助言を行った。その後、令和4年6月に法人を設立し、社会保険労務士が雇用者の福利厚生者の改善のために就業規則の作成を支援した。

## 3 人材の確保・育成に資する取組

★法人化を契機に就業規則を整備し、パート従業員が無理なく働けるような給与体系を導入

### ■雇用環境の変化

法人化したことで、持続可能な経営に向け、早い段階での後継者の確保を意識するようになり、現在、正社員の採用も検討している。今後は県が実施する就農希望者を対象としたバスツアーの訪問先としての提供やマッチング等も検討し、農大生等の積極的な雇用も視野に入れている。



ハウスでの収穫作業の様子

### ■就労規則と労働環境整備

法人化してまもなく、就労規則を整備し、パート職員の年齢層が高いことから、それぞれが無理なく働けるよう歩合制と時給制の2パターンを設定した。

こねぎ調整場も空調の増強のほか、パート職員が働きやすいように個人作業台を設置し、室内はラジオを流しリラックスして作業に臨めるなど、労働環境を改善を行った。



こねぎ調整場の様子

### 今後の意気込み

法人化をきっかけに会社としての社会的信用度を上げて、様々な制度を活用しながら規模拡大したい。また、正社員を採用し、事業の後継者を育成したい。

### 専属スタッフ所感

法人化に伴い、地元雇用の場所となっている。パート職員の目線で働き方や環境を整備しているため、従業員が働きやすい環境が整いつつある。